

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成25年 10月12日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4670300674
法人名	特定非営利活動法人なごみの森福祉会
事業所名	グループホームはあと
所在地	鹿児島県鹿屋市横山町1974番地3 (電話) 0994-31-9101
自己評価作成日	平成25年6月4日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kagoshima-kaigonet.com/
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉21かごしま
所在地	鹿児島市真砂町54番15号
訪問調査日	平成25年8月6日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

何か問題行動が見られた時にどう対応するかということではなく、普段からどのようなケアをしていくかに重点をおいている。普段から一人一人に寄り添って、信頼関係を作り上げることで問題行動と言われる行動があっても柔軟に対応でき、問題行動と言われるものは減少している。管理者の指示で動くのではなく、職員から主体的に考え管理者と話し合いながら行動しようとする協力体制が職員間でできている。また、問題行動の背景や原因についてもよく考えて、明確にしてから対応策を練るように方向づけている。そして、入居者と常に一緒に物事を進めることができるように心がけている。今入居者ができると思われることは、できるまで待つ、できるような環境を作る、ということ大切にしている。また、家族的な付き合いが長くなればなるほど、言葉遣いや態度も荒くなりがちであるが、虐待や不適切なケアにも繋がりがかねないので、丁寧に優しい言葉遣いや態度を取るよう注意している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

○市郊外の周囲に田園が広がる住宅地に、有料老人ホームや小規模多機能ホームと隣接して建てられている。ホームの理念の他に、職員の日々の行動の指針となるスローガンを掲げてケアに取り組んでいる。職員はスローガンと照らし日々自分のケアを振り返り評価し、管理者は適切に助言しながら連携して個々の利用者に寄り添ったより良いケアの実現に努めている。

○地域との交流は非常に活発であり、毎月発行のホーム便りを地域に掲示をお願いして、広くホームの活動を伝達している。地域の行事やイベントへの積極的な参加や、地域の中学生の職場体験学習および地域住民による手品や踊り等のボランティアの受入れ、町内会のサロンへの利用者との参加、管理者と民生委員との連携による地域のネットワーク推進委員としての活動など、地域との協働関係の構築に積極的に取り組んでいる。

○管理者および職員は連携して、利用者の食事への楽しみをより充実したもの(に)しようと努めている。献立は利用者や相談して決定し、食材の買い出しや調理・食卓の準備・後片付けなども利用者個々の能力を十分に発揮できるように、可能なことは一緒に行い自立支援に取り組んでいる。

○管理者は職員の自主性を尊重しており、職員相互も連携して利用者の自立に向けた支援の工夫に積極的に取り組んでいる。管理者及び職員相互の日頃のコミュニケーションも密に図られており、職員会議も職員主導で進められ業務改善や利用者個々に適応したケアを話し合い、実践に取り組んでいる。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	運営理念を3項目、事業所スローガンを3項目決め、それを職員用トイレなどスタッフの目に付くところに掲示してあり、毎日スタッフはチェックしている。	運営理念並びにホームのスローガンを玄関や更衣室等に掲示し、職員は日々確認しながらケアへの反映に努めている。管理者も適宜スタッフに必要なアドバイスを送り、共により良いケアの実現に取り組んでいる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事（小学校運動会、保育園運動会、星塚敬愛園夏祭り、大始良夏祭り）などに参加したり、見学したりしている。また、地元の中学生の職場体験学習を受け入れたり、三味線や踊りなどのボランティアも受け入れている。	地域との交流は非常に活発であり、地域の行事やイベントへ積極的に参加している。また、地域の中学生の職場体験学習および地域住民による手品や踊り等のボランティアの受入れ、町内会のサロンへの利用者との参加、管理者と民生委員との連携による地域のネットワーク推進委員としての活動など、地域との協働関係の構築に積極的に取り組んでいる。毎月発行のホーム便りも地域に掲示して情報発信にも努めている。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている。	年に1回町内会の行事である合同仲良しサロン会に、町内出身入居者がさんかさせてもらえるようにし、グループホームはあとを知ってもらえるようにしている。また、普段から地域を散歩したり、畑や買物に出かけたりして、地域の方々に見てもらえるようにしている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、入居者の様子やサービスの中身や外部評価について報告している。出席できなかった家族にも文書で郵送している。	会議は、家族や市の職員・民生委員・町内会長・地域の高齢者クラブ代表・近隣の薬局職員等が参加して定期的に行われている。利用者及びホームの現況報告や行事・問題点等についての意見交換とともに、委員からは利用者の安全や生活環境の改善等に関する有意義な提案もなされ日々のサービスに活かされている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	電話やメールでよくやり取りし、市役所に出向いたときには、よく話をしている。	市の担当者には毎回の運営推進会議に出席して頂くとともに、電話やメールのほか頻りに担当者を訪問して、ホームの運営や利用者の状況について確認・相談を行い連携を図っている。また、大隅介護事業所連絡協議会にも積極的に参画して、行政とも連携して研修会や話し合いを行い、職員の育成やサービス向上に取り組んでいる。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束についての学習会を年に1回以上は実施し、身体拘束をしないことが当たり前になっている。	言葉による拘束や気持ちの押さえつけなどの防止をはじめとする身体拘束については、毎月の職員会議や日々のケアを通じて十分に話し合いを行い、管理者や職員は連携して安全の確保やその人らしい暮らしの実現に努めている。また、高齢者の権利擁護や身体拘束・認知症ケア等に関する勉強会も実施して職員の理解も深めている。近所の方々とも見守りや声かけをもらえるような関係を築いている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	言葉や口調も虐待になることがあるということを、常日頃からスタッフに発信し、常に意識できるようにしている。また、年に1回以上学習会も実施している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	月に2回実施している職員向け学習会の中で、身体拘束や虐待問題に関連づけて、権利擁護についても取り上げ、スタッフの理解度が高まりつつある。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約締結時に1時間以上かけて説明を行っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	家族面会時、個別記録をいつも見てもらうようにし、意見を聴くようにしている。不満、苦情については説明はしているものの、ほとんど出てこない。	利用者には日常的に頻繁に声かけして思いや意見の把握に努めている。ご家族とは主に来訪時に個別の経過記録を見て頂きながら、話しやすい雰囲気作りに努めて意向を伺っている。得られた意見や要望はケアに具体的に反映させるように取り組み、毎月発行のホームの新聞で活動内容等を報告している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	毎月職員会議を開き、そこで一人一人意見や提案を聞いている。また業務中でも、いつでも聞けるような体制を作り、運営に反映させている。	管理者は、日常業務の中で職員が意見や提案を話しやすいように必要なアドバイスや会話に努めており、毎月の職員会議の運営も職員の自主性に委ねて多くの意見が出やすいように工夫している。得られた意見や提案は、管理者と職員が連携して業務改善やサービスの向上に役立っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	処遇改善加算のおかげで初めて冬季一時金を処遇改善加算以上の金額で出すことができた。夏季は処遇改善加算の範囲内であったが、冬季はまた一時金を出せる予定である。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>できるだけ年に1回以上は外部の研修に、勤務時間内で全員参加できるようにしている。月に2回は自由参加の学習会をしている。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>代表理事が大隅地区のグループホーム協議会の理事をしながら、職員同士の交流となるような研修も企画している。色々な研修に職員の誰かが参加することで、交流が実現できている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	相談から利用に至るまでは、ほとんど家族との話し合いを行っている。そして家族の話をよく聴くようにしている。入居してからは全ての職員が、本人と話をし、本人から話を聴くようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族やケアマネージャー等からよく話を聴いている。電話だけでなく、直接会って話を聴くようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	介護保険以外のサービスについても、どのようなことをしていくべきか話し合いながら、進めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	介護する、されるの関係ではなく、一緒にくらす家族のようなものという感覚で付き合うようにしている。ほとんどのことを入居者と一緒にするように努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	誕生祝や敬老会、忘年会でも家族と交流を深められるように誘いかけ、入居者、家族、職員、地域の方の絆作りに励んでいる。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	3年前よりアセスメントにセンター方式を取り入れ、少しずつ本人の歴史や人となりを把握できるように積み重ね、その中身をケアに生かしている。	利用開始時やアセスメントの際に、ご家族や利用者には、本人の暮らしぶりや本人を取り巻く人間関係などを丁寧に聞き取り、支援に可能な限り活用できるように努めている。ご家族や知人の来訪も多く、本人が希望する買い物や一時的な帰宅・近隣のドライブなどはじめ、ご家族の協力も仰ぎながら外出・外泊の支援も行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士での会話も多く見られるようになった。時々口げんかも出現しているが、関係は良好である。職員が中に入って、みんなと一緒に会話したり、料理など家事をしたりできる雰囲気作りをしている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	今のところ、退居後は入院か、他の施設に移ったか、死亡か、という状況のため、関係が断ち切られることがほとんどであった。退去後も様子を聞いたりすることができている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	本人のしたいことなど希望をよく聴いている。特に入浴時や個室の中など、1対1になった時によく聴いている。本人が言えない時には家族に本人の歴史など聴いて検討している。	日々の暮らしの中、特に入浴時や夜勤の際にゆっくりと会話して、利用者の思いや希望をくみ取るように努めている。職員は経過記録で情報の共有を図り、本人にとって最良の支援となるように家族とも相談しながら努力を重ねている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に家族から、あるいはケアマネージャー、サービス事業者から、それまでの生活について聞き、把握するようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人ができることは何か、できないことは何か、できると思われることは何か、できないことが少しでもできるようになるにはどのようにすればよいか、考え実践するように、日々努力している。入居時歩けなかった方も歩行器で歩けるようになっていく。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	管理者と職員とじっくりサービス担当者会議をしながら、本人のための介護計画を作っている。家族には面会時にポイントを絞って聞くようにしている。主治医にも診察時に意見をうかがっている。	介護計画は、本人・家族からの意向や希望を聞き取り、受診時に聞き取りした主治医からの意見も取り入れながら、サービス担当者会議で管理者と関係者・職員で十分に話し合い利用者本位のわかりやすいものを作成している。また、アセスメントやモニタリングに基づき、定期的及び変化に応じて適切に見直し修正されている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人の経過記録は細かくとってある。細かく記録することで、職員も自分のケアを振り返り、明日からのケアに生かせるようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	グループホーム内だけのサービスにとらわれることなく、地域に出向いたり、ホーム内に来てもらったりして、多機能的な中身を維持できている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議や防災訓練、地域や学校の運動会などの行事、地域の学習センターなどでの行事や祭りなどで協力するようにしている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人と家族の意向をふまえながら、かかりつけ医を決め、定期的を受診している。かかりつけ医とも話し合える関係を築きながら支援している	利用前の受診の経過を把握の上で、本人や家族の希望するかかりつけ医への通院を支援している。訪問看護の来訪も週1回あり、かかりつけ医との情報交換も十分なされ、受診状況や必要な対応についても職員をはじめとする関係者で情報の共有が図られ、家族とも適切に連絡が取られている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	受診時気軽な相談ができる看護師がいる医療機関もあるが、そのような暇もないところもある。昨年より訪問看護ステーションが週に1回入ってくださるようになり、医療との連携が更に密になった。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院の医療ソーシャルワーカーと密に相談しながら退院に向けての支援をしている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した方に対するケアについては、新たに入院設備の整った医療機関とも連携し、全員で確認しながら良い方向へ進めている。一昨年7月からは訪問看護事業所が定期的に入り、医療連携を組んでいる。	重度化や終末期のケアについては、入居時に文書により方針を説明して本人や家族の同意を得ている。訪問看護事業所との医療連携体制も築かれており、かかりつけ医も交えて対応は十分協議がなされ、ホームで行える必要な支援を実施できる体制を整備している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	地域の介護事業所連絡協議会でも年に2回研修会を実施しているので、それに参加している職員がいる。当法人内学習会でも救急救命を学ぶ機会を1度は作っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>毎年4月に昼間想定避難訓練、10月に夜間想定避難訓練を計画し、4月は実施することができた。地元消防団の協力も得られた。</p>	<p>消防署や地域の消防団・防災設備業者・近隣の薬局の職員・隣接する関連施設の職員等が参加して、定期的に夜間も含む避難訓練や消火訓練・通報訓練を実施し、実施後は職員で反省点についても話し合いを行っている。スプリンクラーや自動通報装置等の設置・定期的な消火器の点検もなされており、災害時に備えた食料や飲料水の保管も十分な状況である。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	誇りやプライバシーを損ねないような、コミュニケーション作りをするようにしている。プライバシーに配慮したケアが確立しつつある。個人情報決められた人にしか見せないようにしている。	高齢者の権利擁護や接遇・個人情報保護等に関する研修の充実を図り、職員は連携して日々のケアの中で利用者の尊厳やプライドを損ねるような言葉かけや対応の防止に努めている。職場体験学習受入れに際しても、プライバシー保護に関して指導担当の先生と適切に話し合いが行われ、個人記録の取り扱いにも十分配慮がなされている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	その人のペースに合わせて暮らせるように支援している。その人に合ったケアの中身をみんなで話し合い、共有できるように努めている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	大まかな1日の流れはあるが、何時に何を、というような決まりはなく、希望を聞いたりしながら、のんびり暮らしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	夜間と昼間の服装は変えるようにしているが、着替えさせてくれない方もいる。出かけるときや誕生日のときなど、職員で化粧を施したり、おしゃれするようにしている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事に関する行動の全てに入居者の誰かが関わっている。（買物から片づけまで）好みの料理も聞き出しながら一緒に作って、美味しく味わっている。	献立は利用者と相談して決定し、買い物から調理・食卓の準備や後片付けに、利用者全員に個々の力に応じて関わって頂くように工夫して、楽しみながら食事する雰囲気作りに努めている。また、誕生日の特別食やケーキ作り、家族参加の敬老会や忘年会、ソーマン流し等の外食なども企画して利用者の楽しみにつなげている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食べる量や水分量は毎日チェックしている。量的に確保できるように努めている。脱水になったり、熱中症にならないように注意している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎日3食後歯磨きあるいはインジンでのうがいを徹底し、チェックしている。口腔内異常を示す人は少ない。歯科医にも訪問診療の協力をもらっている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	トイレで排泄できるように歩くことのできない人も昼間トイレに座る時間を作っている。入居後失禁が減り、おむつ使用量が減っている方が多い。	利用者の様子観察や排泄チェック表の活用で適切な声かけを行い、不安や羞恥心にも配慮して可能な限りトイレで排泄できるように支援している。リハビリパンツの活用を推進し、オムツの使用量は減少の傾向になっている。また、夏場はスイカやかき氷も活用して水分摂取にも気配りするなど、個々の利用者に沿った対応になるよう努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	できるだけ薬に頼ることのないように、水分と食べ物に注意し、運動も適度にできるようにしているが、うまくいかず、薬に頼ることや摘便等に頼ることもある。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	入浴は週に2～5回できるように、入居者と話しながら進めているが、夕方からの入浴は職員体制的に困難である。午前午後とも実施し、入浴したい気持ちになるように声かけをしている。	利用者の体調や希望も考慮して、入浴剤の活用やゆっくりと会話しながら、週に数回の入浴を楽しめるように支援している。また、入浴の際は可能な限り本人に体を洗って頂くように声かけし、自立度の維持を工夫している。年2回程度は外食を兼ねて温泉に出かけるなど気分転換にも配慮している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	そのようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の薬剤情報をいつでも確認することができるようにし、全員で把握している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	張り合いや喜びのある生活は入居前に比べればできている。常にできているというわけではないが、十分な支援はできている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	毎日のように病院受診がある週もあったりして、希望に沿った外出ができないこともあるが、外出の機会は多く作っている。今年も花見は都城の母智丘まで行くことができた。	個々の利用者の好みや習慣にも配慮しながら、食材の買い物やドライブ・墓参り・一時帰宅、時には廃品回収などの外出を支援している。また、地域の行事やイベント、季節の花見、外食を兼ねた初詣や温泉、家族の支援を得ての外出や外泊など、可能な限り楽しく外出できるように工夫・支援を行っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>金銭感覚がある入居者に対しては、管理できるようにしている。また、使いたい時に使えるようにする場面も毎回ではないが作るようにしている。買物時一緒に支払いをするようにすることもある。</p>		
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>できる人には家族に了解をもらいながら電話かけの支援しているが、現在は1人だけである。年賀状は全員が出せるように支援している。</p>		
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>職員のアイデアで季節に応じて、壁に貼り付ける手作りのデザインを考えて、一緒に作り、大いに季節を感じてもらうようにしている。また、認知症の方にとってどのような色が快適なのかを研究した上での壁紙のデザインにした。</p>	<p>廊下や浴室・トイレ等は広く、間仕切りがほとんどない開放的な共用の空間は、室温や湿度にも十分に配慮がなされ、畳のスペースや大きめのソファも配置されてゆったりとくつろげるように工夫されている。周囲の壁には近隣住民の作品である絵画や習字、職員が作成した干支や季節が感じられる貼り絵、行事の写真等が掲示され居心地よく過ごせる環境になっている。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>広いリビングではそれぞれソファに座ったり、テーブル席についたり、思い思いの場所にいることができる。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>認知症の方にとってどのような色合いが落ち着くのかなど研究し、壁紙やカーテンの色に配慮した。使い慣れたものの持込を家族には話すが、新しいものを持ってこられることが多い。</p>	<p>居室にはホームが準備したベッドや洗面台・エアコン等が設置されている。本人や家族が希望する家具や写真・ぬいぐるみ・日用品等を自由に持ち込んで頂き、その人らしく落ち着いて暮らせる環境となるように、可能な限り柔軟に対応している。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>混乱している時や、失敗をした時など、「どうして？」という聞き方をしないようにして、混乱を助長しないように努めている。本人ができることは安全に全部してもらうという態度でいつも接している。</p>	/	/

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1 ほぼ全ての利用者の
			2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
		○	3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1 大いに増えている
			2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない

66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1 ほぼ全ての職員が
			2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての家族等が
			2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない